

# 磯子火力発電所見学

橋本良仁

4月22日、東京保険医協会公害対策環境部の皆さんとJ-Power（電源開発）の磯子石炭火力発電所を見学しました。JNEPから4名がご一緒し、9名のお医者さんや4名の事務局の皆さんと学習と交流をしました。

磯子石炭火力発電所は1967年に旧1号機、69年には旧2号機が運転を開始し、2001年に設備を廃止しました。2002年に新1号機、2009年に新2号機が運転を開始して1、2号機の合計で120万キロワットの発電量です。

会社の説明によると、最新の環境対策設備の導入により石炭火力の中ではトップレベルの環境に配慮した火力発電所ということです。石炭火力の公害対策では、磯子2号機の脱硫装置、脱硝装置、粉じん除去装置は国内トップで、少し前の2004年に建った神鋼神戸発電の半分、1968年に建った同社高砂火力のほぼ10分の1、日本が海外に輸出している石炭火力の数十分の1の排出濃度水準です。PM2.5や、新しく大気規制値が設定された水銀対策など新しい状況はわかりませんでした。なお公害対策でトップレベルというのは「石炭火力の中で」です。LNG火力などは硫黄酸化物や粉じんはほとんどないのに対し、石炭火力は燃料が硫黄や、水銀や、多くの汚染物質・有害物質を含み、他の燃料の火力発電所より、汚染物質排出が大きく、しかも石炭灰も排出しています。

発電量あたりCO<sub>2</sub>の排出量は石炭火力はさらに厳しいものがあります。石炭火力の中で比べれば磯子火力はトップクラスですが、石炭という燃料が天然ガスの2倍のCO<sub>2</sub>を排出、かつ石炭火力は発電効率向上技術が遅れているため、新型のLNG(液化天然ガス)火力発電所の約2.5倍を排出、さらに旧型LNG火力の1.5倍、旧型石油火力発電所よりも多く、もちろん自然エネルギー発電所（排出ゼロ）と比べるまでもなく、温暖化対策では国内の火力発電の中でも下位に位置しています。海外ではCO<sub>2</sub>を回収して埋めることを考える発電事業者もありますが、ここではまだ考えていないということでした。

日本では石炭火力が国内で50基も建設計画があり、大気汚染でも温暖化でも大きな問題になっています。石炭火力発電所の中では環境性能トップでそのために高性能の装置を取り付けていることと、そもそも石炭が他の燃料より極端に汚染物質排出が多いという事実のギャップを考えさせられる見学会でした。